

3 外部評価調書 (獣医学部)

外部評価調書（獣医学部）

氏名 尾崎 博

I 総論

特記すべき点

（優れた点）

- ・他大学に先駆けて共同教育システムを導入したことは高く評価される。都市型獣医大学である北大にあって、帯広畜産大によって産業動物教育が補完されていることから、共同教育制度を導入したことが適切な判断であったことを証明している。
- ・恵まれた教員スタッフのもと、質の高い「コア教育」を実施していることもうかがえる。
- ・ITの導入、またFDも活発に行っておりこれらも評価される。

（改善を要する点）

- ・共同教育の成果についての最終判断にはもう少しばかり時間が必要である。検証のための学内組織を今から構築すべきであり、中間評価も実施すべきであろう。

以下の「評価結果および判断理由」（評価結果）は、下記4段階から選択願います。

- A. 自己点検の内容は、期待される水準を大きく上回る
- B. 自己点検の内容は、期待される水準を上回る
- C. 自己点検の内容は、期待される水準にある
- D. 自己点検の内容は、期待される水準を下回る

II 教育

評価結果及び判断理由

(評価結果)

(B)

(判断理由)

従来の教育組織を見直し、共同教育システムを他大学に先駆けて構築した点は高く評価出来る。

特記すべき点

(優れた点)

・Face to Faceは教育の基本であり、共同教育に際しこれを重視する姿勢は評価できる。

(改善を要する点)

・Face to Faceを重視する姿勢には賛同し評価するが、教員の負担はむしろ増えている。質の向上だけではなく、共同教育は効率化も求めている。出前講義と遠隔講義の得失について、今後多方面からの検証が求められる。特に、学生からの意見を最優先にしつつ、他大学の取り組みの優れた点も積極的に取り入れることも必要であろう。現時点ではFace to Faceに固執することなく現実的な教育手法を選択する余裕も欲しい。

・モデルコアカリキュラムが推奨するコアとアドバンスの比率は2 : 1とされている。アドバンス科目が外からも見える状況を作るべきではないか。

総合評価

・共同教育の最終ゴールは、学生を一ヶ所に集めることであることは誰の目にも明らかであり、今の状況が理想の教育環境であるとは言えない。多くのハードルはあるが、次の大きな決断に期待したい。北大と帯広畜産大双方の議論が今後どう高まるのかに注目したい。

・今後共同教育をどの様にするかに関しては、2大学が大学院をどう考えるかも当然リンクしてくる。感染症に関する2大研究施設を擁する両大学が合意すれば、世界に誇れる特色ある大学院が生まれる可能性がある。

外部評価調書（獣医学部）

氏名 酒井 健夫

I 総論

特記すべき点

（優れた点）

北海道大学獣医学部は、昭和27年4月の設置以来、常に我が国の獣医学教育研究分野における指導的役割を果し、国内外で活躍する多くの人材を輩出してきた。当学部は、平成24年4月に帯広畜産大学畜産学部と共同獣医学課程を設置し、獣医学教育の国際水準に到達すべきハード面及びソフト面の整備を図り、平成32年のEAEVE認証申請を目的として、平成25年度から計画的に準備を開始している。また当学部は、長年の国際交流の実績を活用した国際教育の実践を強化している。

（改善を要する点）

現在推進している共同獣医学課程は、教員及び学生の札幌と帯広間の移動が主軸であり、教員側及び学生側に大きな負担を与えていると思われる。設置の趣旨に沿った共同獣医学課程を推進するには、同一教育環境で、教育の理念と目的を反映した教育の提供が求められる。特に、卒業時に学生は両校の総長と学長の連名による学士（獣医学）学位が授与がされるので、学生の受け入れ、進路指導、教育実態、将来構想等を検証し、改善に取り組む必要がある。また、教員数が従前の実質2倍となっているが、任期制の特任教員が多いので、今後いかに専任教員数を確保するかの具体的方策を検討する必要がある。

以下の「評価結果および判断理由」（評価結果）は、下記4段階から選択願います。

- A. 自己点検の内容は、期待される水準を大きく上回る
- B. 自己点検の内容は、期待される水準を上回る
- C. 自己点検の内容は、期待される水準にある
- D. 自己点検の内容は、期待される水準を下回る

II 教育

評価結果及び判断理由

(評価結果)

(A)

(判断理由)

教育の目的と特徴、実施体制、学生の受け入れ状況、教育の実態、学生支援に関して、大いに期待される水準にあり、また各課題については具体的改善方策が示されている。

特記すべき点

(優れた点)

国際水準の獣医学教育を実践するために、帯広畜産大学と共同獣医学課程を設置し、先進的かつ実践的な獣医学教育を推進している。そのため、当学部には獣医学教育改革室を設置し、教育体制の整備充実、教育プログラムや教育コンテンツの開発、連携教育プログラムの実践、アジアの獣医学系大学と単位互換の推進等を図っている。当学部の特色として海外大学との学術交流を深める中で、留学生の受け入れは拡大傾向にある。また、教育の質を確保するため、双方向授業の原点であるface-to-face教育の実践やセルフラーニングシステムの導入による教育環境の整備が図られている。

(改善を要する点)

入学者数が定員を上回っている点、アドミッションポリシー、カリキュラムポリシーおよびディプロマポリシー等の教育方針に当学部の特色が求められる点、共同獣医学課程を推進する上で将来に向けた改善を図る課題が多い点等、早急に組織的に改善を図る必要がある。学生の各教室への配属者数は、毎年0～3名と幅があり、教育の高位平準化を図る上で、少なくとも各教室1名は配属すべきと思われる。学生の卒業後の進路で、当大学大学院獣医学研究科への学内進学者が、平成22～25年は毎年4～7名であり、社会が求める当学部への期待や、優れた研究環境と研究指導者が整備されている中で、学内進学者を増員させる取り組みが必要である。

総合評価

北海道大学獣医学部は、整備された教育・研究環境と優れた教員が配置され、自身の自己点検・評価報告書を拝見して、各分析項目が期待される水準を上回っていると判断される。このように国際水準に近い獣医学教育を提供できる環境の整備に向けた当学部の努力は、高く評価される。当学部が設置以来、社会に貢献する多くの人材の育成に、学部組織を上げて取り組んである北海道獣医学部は、わが国の獣医学教育界の牽引者として活躍されることを期待される。

なお、当学部自身が最重要課題として位置付けている共同獣医学課程の推進は、その設置の目的が北海道大学と帯広畜産大学の双方の獣医学教育の歴史と設置された環境を活用し、ヒューマン・インタラクティブな教育の実践である。また、共同獣医学課程は、EAEVEからの教育認証取得を短期的目標としていて、国際水準の獣医学教育体制の整備と実践を当面の目標としている。従って、両校の関係者は、常に共同獣医学課程の設置の趣旨、目標、情報、認識、手法を共有化し、前例に拘ることなく国際水準に向けた教育改革を推進し、わが国をはじめアジアにおける教育モデル校として発展されることを願ってやまない。

外部評価調書（獣医学部）

氏名 佐藤れえ子

I 総論

特記すべき点
(優れた点)

◎帯広畜産大学との共同獣医学課程を設置して、共同教育を実施している点 ◎獣医学教育の国際化を目指して教育改革に取り組んでいる点

(改善を要する点)

●共同教育課程の設置により、より大きな教員組織で多彩で充実した教育を受けられるようになった反面、各大学の教員の負担は大きく、また教育効果についても未だ精査されていない。完成年度を待っての評価ではなく、より良い学部教育にシフトしてゆくための資料収集のためにも、学生に対するアンケート調査や教員に対する意見聴取とその取りまとめを行い、情報を蓄積してゆくことが必要と考える。

以下の「評価結果および判断理由」（評価結果）は、下記4段階から選択願います。

- A. 自己点検の内容は、期待される水準を大きく上回る
- B. 自己点検の内容は、期待される水準を上回る
- C. 自己点検の内容は、期待される水準にある
- D. 自己点検の内容は、期待される水準を下回る

II 教育

評価結果及び判断理由

(評価結果)

(A ・ ○B ・ C ・ D)

(判断理由)

帯広畜産大学との共同獣医学課程構築により、113名の教員による獣医学教育が可能になった点が評価される。そして2大学は同時に国際認証の教育を推進する部署を設置して、機能強化に取り組んでいる点も評価される。

特記すべき点

(優れた点)

帯広畜産大学との共同獣医学課程構築。対面授業での教育。国際認証獲得に向けての取り組み。

(改善を要する点)

対面授業による共同教育は想像以上に教員の負担を重くしていることがうかがわれる。今後臨床実習なども実施されるようになるが、負担と効果については、早い時期から評価してゆく必要があると考える。そのための情報収集を始めるべきである。200km以上離れた2つの学部間でこのシステムが本当に効果があるかどうかを判断する必要があるだろう。教員の負担と学生の負担、そして教育効果の精査が求められる。本来有るべき姿としては、これらの規模の教員組織が1箇所ですべて教育するという点であろう。

総合評価

学部教育は、共同獣医学課程による教育システムを採用し、中身としては国際認証を目指すということで取り組んできている。国際認証を目指す教育体制としては、今後教員の各分野への配置バランスを、従来型から臨床重視にシフトする必要性が出てくるものと思われる。学部教育のこのような変革は、将来的には大学院における研究内容にも変化をもたらすものと考えられる。共同教育については、真の教育効果についての評価のための情報蓄積が必要である。また、遠隔講義の採用など教員の負担を減らす工夫も必要であると思われるが、その際にも教育効果が現時点よりも落ちないように工夫する必要がある。

外部評価調書（獣医学部）

氏名 杉山 誠

I 総論

特記すべき点
(優れた点)

獣医学教育の国際的水準を目標に帯広畜産大学との間で共同獣医学教育課程を構築し、欧州獣医学教育施設協会の教育認証を目指して教育環境の整備充実とともに戦略的な取り組みを展開している点は高く評価できる。

(改善を要する点)

報告書には、共同獣医学教育課程について抜本的改変、教育内容の見直し、施設整備などの記載があることから、不断の検証とその結果に基づく改善が必要である。

以下の「評価結果および判断理由」（評価結果）は、下記4段階から選択願います。

- A. 自己点検の内容は、期待される水準を大きく上回る
- B. 自己点検の内容は、期待される水準を上回る
- C. 自己点検の内容は、期待される水準にある
- D. 自己点検の内容は、期待される水準を下回る

II 教育

評価結果及び判断理由

(評価結果)

(B)

(判断理由)

欧州獣医学教育施設協会の教育認証を目指して、共同獣医学教育を推進している点は高く評価できる。一方で、我が国でほとんど経験のない共同教育にもかかわらず、評価体制が整備されていないことから、本教育の改善に向けた検証の仕組みが課題として残っている。

特記すべき点

(優れた点)

- ・国際水準の獣医学教育を目指して、共同教育制度を活用し、欧州獣医学教育施設協会の教育認証を得るための環境整備を強力に推進している点は特筆に値する。
- ・大きく分野に偏ることなく、幅広く人材を社会に輩出している点は評価できる。
- ・e-learning、自学自習システムなど、ITを活用した教育環境の整備を積極的に推進している。

(改善を要する点)

- ・共同教育について検証・改善する仕組みを早急に整備する必要がある。

総合評価

我が国の獣医学教育の目標となっている国際水準を目指して、帯広畜産大学とともに欧州獣医学教育施設協会の教育認証を得るため活動を強く推進している点は高く評価できる。また、これを礎に、全国獣医系大学の教育水準の底上げを先導とする企図については、我が国の獣医学教育を牽引する大学として相応しい姿勢と評価し、期待したい。一方で、対面式授業重視の共同教育による教員の負担、4大学連携補助事業終了後の特任教員・各種経費の補填策など、今後に向けた課題が残されていると考えられる。共同教育に関する検証を不断に実施し、組織全体が疲弊しないよう、効率かつ効果的な教育を推進する改善策を講ずることが望まれる。